

## 自動車競技ラリー最高峰「世界ラリー選手権」でリアルタイム手話実況を実施【報告】

報道関係各位

岡山放送株式会社（本社：岡山市北区下石井二丁目10-12、以下OHK）は11月16日～19日、愛知・岐阜県の両県で開催された、FIA世界ラリー選手権の日本ラウンド「フォーラムエイト・ラリージャパン2023」（以下世界ラリー選手権）においてリアルタイム手話実況を実施しました。

リアルタイム手話実況は、一般財団法人トヨタ・モビリティ基金（東京都文京区、理事長：豊田章男）が企画した2022年アイデアコンテスト「Make a Move PROJECT」から誕生したもので、多様な人がレース観戦を楽しむためのアイデアとして、OHKはモータースポーツ手話実況を日本で初めて実施しました。その後も同基金の助成を受けながら「OHK手話実況アカデミー」を創設し、手話実況の人材育成と技術向上を目指しさまざまな研修や実践を行っています。

こうした中、同基金がコンテストの取組を広く周知するために、世界ラリー選手権メイン会場となる豊田スタジアムを中心に広報活動を行い、その活動の一つとしてOHKの手話実況が紹介されました。OHKは大会期間中の4日間、約8万人の来場があった同スタジアムイベント広場において2つの取組を実施しました。

### ■取組①手話実況体験

来場者に向けた手話実況体験プログラムを提供し、手話実況を通じてモータースポーツの魅力をさまざまな人に発信するとともに、ろう者や手話への周知や理解促進を行いました。



豊田スタジアム入口



手話実況体験ブース（講師の早瀬憲太郎さん：写真右）（講師の長井恵里さん：写真右）



体験プログラムはろう者が講師をつとめ、体験ブースを訪れた来場者が実際のレース映像を見ながら簡単な手話単語を使ってリアルタイムで実況する体験を行いました。健常者と障がい者が一緒に体験したこの取組は、トヨタ自動車 佐藤社長をはじめ、4日間で約160人が体験したほか、愛知県大村知事、全日本ろうあ連盟など多くの関係者が視察しました。体験者からは「スポーツに手話実況があった方が良くと思う。どんな人でも楽しめる環境はとても良い取組だと思ふ」との感想が寄せられました。



「スタート」の手話を使って手話実況をするトヨタ佐藤社長（写真右手前）



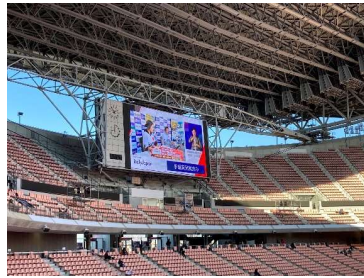
手話実況体験の後「おつかれさま」の手話をするトヨタ佐藤社長（写真右）

■取組② 国際大会でのリアルタイム手話実況

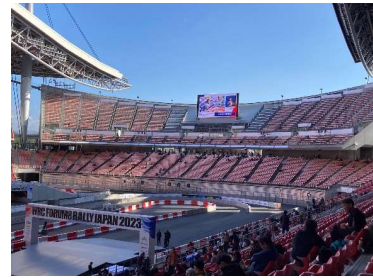
大会最終日の19日、注目を集める最終パワーステージ旭高原SS（豊田市旭八幡町）で、約1時間にわたる熱戦のリアルタイム手話実況を行いました。実況MCを担当した早瀬憲太郎さん、長井恵里さん（ともにOHK手話実況アカデミー生でろう者）、ろう者に音声実況情報を届ける手話通訳者、そして30年継続している手話放送とスポーツ実況中継のノウハウを持つOHKが、それぞれの特性や強みを集結させ、正確かつ躍動感のある手話実況が実現しました。



手話実況をする早瀬憲太郎さん



豊田スタジアム大型ビジョンの様子



手話実況ワイプを画面右上に表示

モータースポーツの国際大会で初となるリアルタイム手話実況はスタジアムの大型ビジョンなどでパブリックビューイング映像として放映されました。観戦に訪れていた聴覚障がい者は「今まで情報が分からないまま見ていたが、手話実況を通して聞こえる人と対等な情報を得ることができた。同じように楽しめる機会を与えてもらったことがうれしかった。『通訳』ではなく今回のような『実況』という形があることが理想。これからも広げてほしい」と話しました。

今回の手話実況は全日本ろうあ連盟の監修を受け、「タイムアタック」「コ・ドライバー」、ラリー参加車両の「ヤリス」など、これまでろう者が触れづらかった専門用語の手話表現を考案し、ラリーの魅力を当事者の言葉で届けました。OHKはこのような取組を継続し、2025年に日本で初めて開催されるろう者のオリンピック「デフリンピック」に向け、今後も様々なスポーツ実況に対応できる人材育成を目指すとともに、障がいの有無にかかわらず誰もがスポーツ観戦にアクセスできる環境を創出し、「情報から誰一人取り残されない社会」の実現を目指してまいります。

<手話実況岡山チームの活躍>

OHK手話実況アカデミーでは、スポーツや文化などの分野で活躍するろう者や手話通訳者が全国から集まり研修や実践を積んでいます。今回の世界ラリー選手権手話実況体験プログラムでは岡山勢が活躍しました。

生まれつき耳が聞こえないろう者の佐藤正士さん、手話通訳者の木村昭人さん、泉田絵理さんは岡山から参加しました。佐藤さんは「手話を知らない方がたくさん来た。手話ではこう表現するのかという驚きや、難しいなど色々な声が上がった。一部の番組だけでなく、全ての番組に手話ワイプがあると良い」、また4日間手話通訳をした木村さんは「体験者が『難しかったけれど楽しかった。表情と体で表現することが分かった。会場は車の音で音声実況が届かないことが多いが、手話実況者の動きで状況が分かる』と初めて感じた手話の魅力を話し、ろう者が『そうです。でもあなたが考えたチェッカーフラッグの手話表現はとても素晴らしかった』と返す。そんな光景を間近で見られたことに感謝するとともに、手話通訳者としてやりがいを感じた。このような取組の積み重ねが社会を変えていくことにつながると確信した」と話しました。



実況講師の佐藤さん（中央）、手話通訳の泉田さん（左）、木村さん（右）



手話漫才師佐藤さんの体験プログラムは体験者から「おもしろい」と好評の声

▶OHKニュース記事：<https://www.ohk.co.jp/data/29940/pages/>